

パーシェ・チェックの結果について

消費者物価指数の基準改定に際しては、新旧基準時点間の消費構造の変化による指数への影響を検証する観点から、パーシェ・チェックを行っている。

「パーシェ・チェック」の結果(全国、持家の帰属家賃を除く総合)

基準時	比較時	ラスパイレス指数 (L)	パーシェ指数 (P)	パーシェ・チェック $\left(\frac{P-L}{L} \right)$
1990 年基準	1995 年平均	106.4	106.2	▲0.2
1995 年基準	2000 年平均	101.0	99.9	▲1.1
2000 年基準	2005 年平均	97.3	94.9	▲2.5
2005 年基準	2010 年平均	99.7	93.1	▲6.6
2010 年基準	2015 年平均	104.6	103.8	▲0.7
2015 年基準	2020 年平均	102.3	101.3	▲0.9
2020 年基準	2025 年平均	114.0	111.7	▲2.0

「ラスパイレス指数」は指数の基準時を、「パーシェ指数」は指数の比較時を、それぞれ品目別ウェイト (w_i) の参照年次とする。なお、品目別指数 (I_i) は同じものを使用する。

$$\text{ラスパイレス指数 (L)} = \frac{\sum I_{i,t} w_{i,0}}{\sum w_{i,0}} \quad \text{パーシェ指数 (P)} = \frac{\sum w_{i,t}}{\sum (w_{i,t}/I_{i,t})}$$

一般にパーシェ・チェックの絶対値が大きいほど、新旧基準時点間におけるウェイト(消費構造)の変化の度合いが大きいと考えられる。例えば、価格の値下がりと同時に需要が増えてウェイトが拡大するような品目が多かった場合は、パーシェ・チェックのマイナスの値が大きくなると考えられる。